

## おたふくかぜにご用心

2010.04.15

今年に入って函館市内近郊では、過去 5 年間の平均の 5 倍以上のおたふくかぜの大流行が見られます。

手元に資料が残っている過去 20 年の統計を見てみますと、函館市内近郊でのおたふくかぜの流行は、インフルエンザとともに大流行した平成 9 年について 2 番目の多さになっています。平成 15 年、16 年にも小流行がありましたが、その後はほとんど流行もなく過ぎていますので、小学校高学年のお子さんがワクチンをしていなくておたふくに罹るということがたくさん起こっています。

おたふくかぜというと、みなさんはどんな病気と思われるでしょう。耳の後ろの耳下腺やあごのところにある顎下腺というところが腫れたり、大人になっておたふくにかかると重症になったり、睾丸炎になって不妊の原因になるということでしょうか？

おたふくかぜになって一番心配なのは、「おたふく難聴」という、片方の耳が全く聞こえなくなるという合併症です。頻度はおたふくになった人の 1 万人に一人という報告から、数百人に一人という報告までまちまちですが、おたふくの中で最も注意しなければならないものなのです。残念ながら、おたふく難聴の存在はあまり知られていません。難聴を早期に見つけたとしても、治療によって元の聴力に回復することはあまりありませんが、早期に発見して悪くなる可能性を少しでも減らす治療がなされます。耳鼻科の先生にお話を聞くと、函館地域でもおたふく難聴で苦しんでいるお子さんは確実にいますとのこと。

おたふくかぜの予防はなんといっても予防接種です。ワクチンで防げる病気の多くは接種することでほとんどかからなくなるものですが、おたふくかぜワクチンだけは抗体の出来る人が約 80% とあまり高くはありません。それでもワクチンをすることにより、難聴になる危険性をできるだけ少なくすることは現在でも可能と考えられていますので、任意接種でお金がかかりますが、ぜひして欲しいワクチンと考えています。新入園、新入学の時、まだおたふくに罹っていないお子さんは、これを機会にワクチンをして難聴の危険性を少しでも下げるようにしてください。